

街の活力は 自立と創造から

あのまちこの街

街路一新 思い入れが結実

1300年の歴史とともに 新たな空間づくりを推進

五輪都市の門前町にあって 歴史を大切にしたい景観整備

善光寺の前庭づくり

長野市の中心市街地として栄えてきた大門町上商店街。千三百年の歴史を持つ善光寺の門前町として知られている。江戸時代には北国街道善光寺宿として旅人の疲れを癒した。

大正時代に入り街路の拡幅を実施。それまでの六間から十間幅にし、昭和二十九年には長野県で初めてアーケードを設置した。

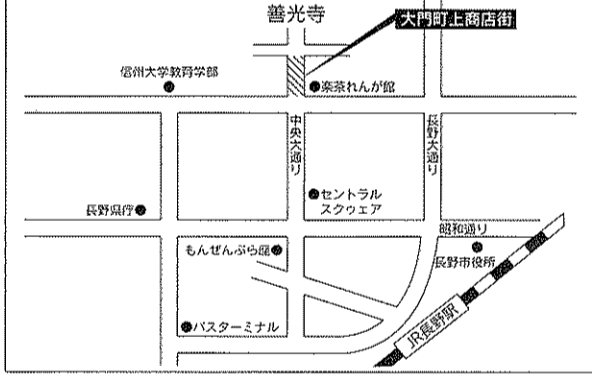
イメージアップに外国人

街路整備・景観整備事業は、電線など地中化工事(キャブ事業)にあわせて平成八年に完成した。



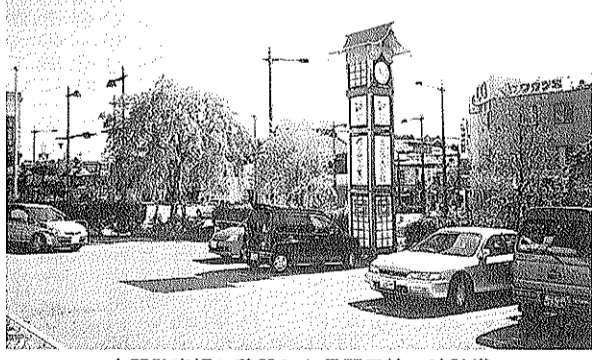
だいもんまちかみ
**大門町上
商店街協同組合
(長野市)**

長野市は人口約三十万人。日本のほぼ中央に位置し、美しい山並みと千曲川・犀川の大河に抱かれた高原の気候の地である。明治維新を経た明治三十年、市制施行により長野市が誕生。平成九年には市制百周年を迎えた。平成十年には長野オリンピック冬季大会が開催された。大門町上商店街協同組合は、善光寺の門前町として生まれ千三百年の歴史を持つ。江戸時代には北国街道善光寺宿として栄え、明治時代以降は中心市街地の一角となった。しかし長野市が拡大発展するなか、立地の良さだけでは苦戦するようになった。商店街



賑わい感じる表参道

善光寺門前の土蔵は明治時代に使われていた肥田



大門駐車場に移設した長野五輪の時計塔



参拝客で賑わう善光寺の本堂

時間をかけた検討が成功へ

長野TMOでは「ばていお大門整備事業」とい

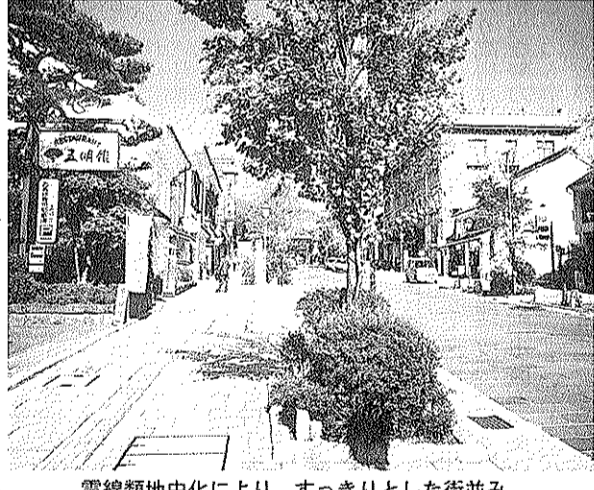
しかし県庁所在地の長野市が拡大発展するなか、車社会の到来で中心商店街としてのパワーがなくなってきた。年月を経ても完成当初にも増して一層の魅力と変化を楽しめるようにしたい、長野市を訪れる多くの人に楽しんでもらいたいとの思いから「善光寺の前庭づくり」を大門町の事業コンセプトとした。

街に舞台が出現

街路整備が完成したことで街に新たな賑わい空間ができた。街路そのものが「舞台」としての大きな価値を持った。

時間をかけた検討が成功へ

長野TMOでは「ばていお大門整備事業」とい



電線類地中化により、すっきりとした街並み



旧物産館を活用した「茶茶れんが館」



商店街の入り口にある大常夜灯

コラム

長野といえ一九九八年二月の冬季オリンピックが印象に残る。二十世紀最後の冬季オリンピックとして「愛と参加」を基本理念に、史上最多七十二の国・地域の参加を得た。六カ所の競技施設は現在も様々な形で活用されている。開会式・閉会式のオリンピックスタジアム(南長野運動公園)は、多目的競技場として利用されている。聖火台は記念撮影スポットとして今も人気。

そのほかボブスレー・リュージュ、フィギュアなどの会場もあり、ほとんどが無料で利用できる。